

北の国で行政と市民をつなぐ NPOのチカラ

WebアクセシビリティJISを勉強しなくてはならないのだが
やはり行楽の秋でもある。

ちょっとアクセシビリティJISの解説はお休みして
北海道の地域ポータルサイトをのぞいてみよう。

関根千佳 = 文

ユーディット 代表取締役
情報のユニバーサルデザイン研究所

等身大の情報発信

秋の札幌。紅葉、グルメ、温泉と魅力は尽きない。さあ、旅行に行こうと思いついたときに、頼りになるWebサイトが「ようこそさっぽろ」と「Webシティさっぽろ」である。

自治体のWebサイトは、お店や旅館の情報が載っていないので、観光客は使いにくい。公的機関だから、特定の店の宣伝になるのは不公平なので掲載していないという。一方、完全に商業ベースのサイトは、宣伝文句ばかりが並んでいるだけで、信頼性に欠ける。

その町の、普通の市民の声や、町の中で流行している場所やモノなど、等身大、かつ旬の情報が欲しいのだ。市民にとっても、自分の住んでいる地域の情報がそこが必要なきもある。「ようこそさっぽろ」は、そんな旅行者や市民にとって、情報の宝庫である。市民がみずから取材に行って、納得したものを教えてくれる。たとえ行かなくても、見ているだけで、なんだかその町が少し好きになっている。そんな気がするサイトなのだ。

また、「Webシティさっぽろ」の情報は、もっと地域密着型である。台風で倒れた木の状態や、倒木を片付ける町の



Webシティさっぽろ

人の表情、風で落ちてしまったりんごの処理方法など、町の人が、最も関心を寄せている問題についての情報が、刻々と、淡々と、語られている。写真も、文章も、どこか胸を打つものがある。情報を提供する人も、それを編集する人も、札幌という町への深い愛情を持っていることが、行間に感じられるのである。デジタルの暖かさでも表現すればいいのだろうか？

行政と市民の橋渡し

この二つのサイトを編集しているのが、NPO法人のシビックメディアである。「札幌市民情報センター」の運営を受け持ち、この二つのサイトの情報を更新し、市民と行政のちょうど真ん中に立って、どちらにとっても有益な情報を、市民が発信していく手助けをするNPOだ。

こういったNPOが生まれたのは、札幌市が平成10年から試験的に設置した「子育てメーリングリスト」の中での、市民と行政の協働、パートナーシップが背景にある。最初はクレームも多かった議論の中で、自分の意見として子育てを語る職員たちに、次第に市民の共感が集まってくるようになる。やがて建設的な提案が始め、自分たちの問題として情報発信を考えるようになった市民たちが増えていく。ここにいたメンバーの幾人かが、このNPOや、市民情報センターの基礎になっていったのだ。

この「市民情報センター」も、ほかの自治体住民からすれば、なんだかうらやましいものである。パソコン50台が無料で貸し出され、年齢や立場を超えて使い方や情報発信の仕方を教えあう。料理レシピ作成やデジタル写真編集のワークショップもある。

市民情報センターにあるミニスタジオ「そら色ステーション」では、コミュニティFMの電波を利用して毎週公開生放送が行われ、市の職員をゲストに迎えることも多い。市役所の仕事をもっと身近に感じてもらえればと、さまざまな部局の人たちがこれまでに登場している。

市民情報センターに置いてある机やイス、傘立ても、気が付けば、どれもユニバーサルデザインだ。さりげなく、わかりやすく、ベビーカーにも車イス利用者にもシニアに

も使いやすい。だれもが、情報受発信の主役なのだと、市民に伝える姿勢が心地よい。

シビックメディアのメンバー、杉山幹夫氏は、豪快な笑いの持ち主だ。この笑顔で取材されたら、だれだって心を開いてしまいそうだ。

「札幌だからね。雪降るでしょう？ 寒いんだよ。ほっといたら、死んじゃうんだもの。だから、みんな、助け合うんだよ。行政とか、市民とか、立場で戦ってる場合じゃないんだよ。できることを見つけてみんなでやる。その思いが、根っこに共通にあって、それが協働につながっていったんじゃないのかな？」(杉山氏)

市民ジャーナリストの育成がライフワークという代表の吉村卓也氏とともに、この杉山氏の熱い思い、札幌が好きだという気持ちが、人々の心をまとめ、このサイトに結集しているのだろう。地域ポータルというもののあり方、市民情報センターのあり方、そして、市民と行政のパートナーシップのあり方を、秋の夜長に、冷酒でも飲みながら、このサイトで考えてみてはいかがだろうか？ 

- ようこそさっぽろ
<http://www.welcome.city.sapporo.jp/>
- Webシティさっぽろ
<http://web.city.sapporo.jp/>
- 札幌市民情報センター
<http://media.city.sapporo.jp/>
- そら色ステーション
<http://media.city.sapporo.jp/sorairo/>
- シビックメディア
<http://www.cvm.or.jp/>



ワイヤレスでインターネットにつながるノートパソコン50台が無料で利用できる札幌市民情報センターの情報ラウンジ。受付や机、イスに至るまで、すべてユニバーサルデザインだ